第 13 講　幕藩体制の動揺と改革
PART2 田沼時代

Chapter 1　側用人・老中田沼意次の登場

目標
田沼意次の出自について知ろう。
田沼意次が現実主義といわれるのはなぜだろう？

1　田沼時代の性格

①［1　　　　　　　　　　］

10 代将軍家治の治世。9 代将軍家重の小姓から御用取次に登用される。
さらに 1772 年に初めて**側用人**から**老中**となった
［2　　　　　　　　　　］が実権を握る（1767 ～ 86 年）。
※ 9 代将軍の治世で**宝暦事件**（1758 年，京都で国学者**竹内式部**を追放），
10 代将軍の治世で**明和事件**（1767 年，江戸で兵学者**山県大弐**を処刑）という
2 つの尊王事件が発生している

②性格

A　側近政治の完全復活
9 代将軍家重も側用人大岡忠光を登用していた。

B　徹底した**現実主義**で**商品貨幣経済の発達に積極的に対応**
再び行き詰まり出した幕府財政を再建するため，
年貢増徴に頼らず民間の経済活動を活発にし，
その富の一部を財源に取り込もうとした。
※しかしそれが**賄賂や縁故政治の横行**を招く。

田沼意次

2 商業資本の積極的利用

物価・流通統制と**運上〔運上金〕・冥加〔冥加金〕**の徴収がねらい。

①**専売制**の拡大

特定の御用商人に，銅座以外に鉄座・真鍮座・朝鮮人参座なども新たに組織させる。

②〔3　　　　　　〕**の奨励**

都市問屋商人の仲間に株（営業独占などの特権）を認める代わりに，

運上・冥加を納めさせる。農民や**在郷商人**は，流通の独占に激しく反発。

※株仲間は原則禁止だが，５代将軍綱吉が黙認，８代将軍吉宗が公認してきた。

③**印旛沼・手賀沼（下総国）の干拓**

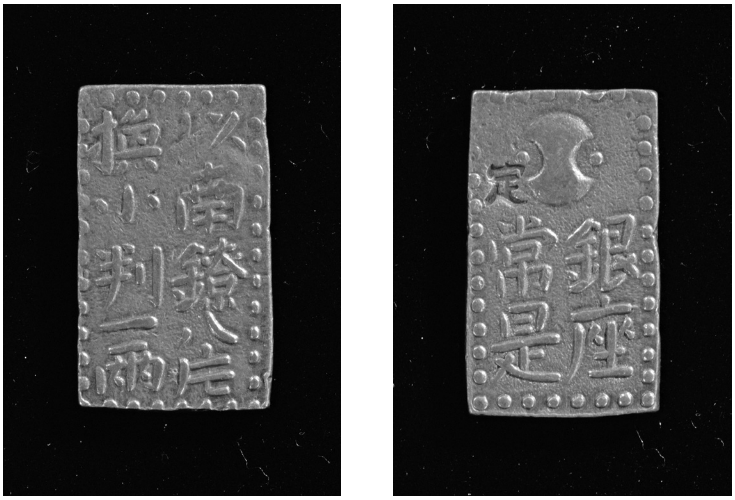
江戸・大坂の商人の力を借り，新田開発・水運の利便・洪水の抑止などを図り，

工事はほぼ完成に近づいたが，利根川の大洪水などが原因で挫折。

④**計数銀貨**の鋳造

商取引の円滑化を目指し，金中心の貨幣制度への統一を図る。

※明和五匁銀（1765年），〔4　　　　　　　　　　〕（1772年～）。



南鐐二朱銀

まとめ
田沼の一族は紀伊藩から江戸に上り，
意次が小姓や御用取次を経て側用人，さらに老中にまで出世した。
意次は発展を続ける商品貨幣経済に現実的・積極的に対応していった。

Chapter 2　現実主義的な改革

目標
交易関係における田沼時代の特色を知ろう。
優れた政治家・官僚が評価されないこともある主要因は何だろう？

1　開発計画と貿易の拡大

①蝦夷地の開発計画・対露貿易計画

A 〔1　　　　　　　　　〕**『赤蝦夷風説考』**の意見を採用

仙台藩の医師。1778 年，ロシア船の厚岸来航を背景とする。

B 〔2　　　　　　　　　〕の**北方探査**（1785 年〜）

蝦夷地・千島列島を探査。アイヌとの交易の実態や

新田開発・鉱山開発・ロシア貿易の可能性などを調査。

②長崎貿易の拡大

銅 7 ：俵物 3 の割合で支払い，貨幣鋳造のための**金・銀輸入を図る**積極策を展開。

※俵物は**俵物三種〔いりこ・干し鮑・ふかひれ〕**が中心。

2　田沼時代の結果

近年，田沼時代は再評価される傾向が強い。

①商品貨幣経済の急速な進展が農村・都市で階層分化を引き起こす

農村では，村役人たちが地主手作を行うとともに田畑を集め有力な地主に成長，

豪農と呼ばれた。一方，小規模な本百姓や水呑百姓〔小作人〕らは**貧農**と化した。

※都市では地主・家持が減少し，住民の多くが地借・店借・商家奉公人となった。

また，**出稼ぎなどで農村部から流入**する貧農が増加し，**無宿人**も目立った。

②賄賂・縁故政治への不評

幕府役人と商人の癒着が進行。

③武士本来の士風が退廃

文人的武士が出現し，武士の町人化が進行。

※田沼の大胆な改革に刺激を受けて，

民間の学問・芸術は多様な発展を遂げる（＝**宝暦・天明期の文化**）。

④天災の頻発

目黒行人坂の大火〔明和の大火〕（1772 年），**天明の飢饉（1782 〜 87 年）**，

〔[3]　　　　　　　〕**大噴火（1783 年）**など。

※それに伴い，百姓一揆・打ちこわしが激増。

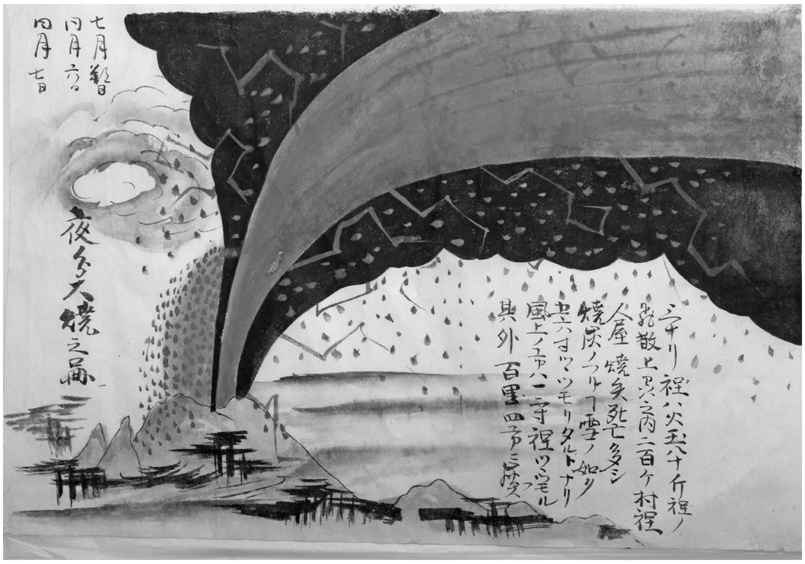
※「浅間しや富士より高き米相場　火の降る江戸に砂の降るとは」

⑤**田沼意知（若年寄**，意次の子）殺害事件（1784 年）

私憤から，旗本の佐野政言〔「世直し大明神」〕に殿中で刺殺される。

⑥田沼意次老中罷免（1786 年）

10 代将軍家治の死去に伴い完全に失脚。多くの政策も中止となった。



浅間山大噴火

まとめ

田沼時代には，鎖国体制下において貿易の拡大が図られた。

時代や場所，評価する側の現状などにより，

政治家・官僚の評価は常に変化していく。

第13講　PART2　確認問題

1 老中・田沼意次が実権を握った田沼時代の10代将軍はだれか。

① 徳川家慶　② 徳川家重
③ 徳川家斉　④ 徳川家治

2 宝暦事件で追放された国学者はだれか。

① 山県大弐　② 竹内式部
③ 荻生徂徠　④ 大岡忠光

3 田沼時代の政策に**あてはまらないもの**はどれか。

① 株仲間の奨励　② 専売制の拡大
③ 足高の制の実施　④ 計数銀貨の鋳造

4 田沼意次が干拓を進めた印旛沼・手賀沼はどこにあったか。

① 武蔵国　② 上総国
③ 下総国　④ 上野国

5 蝦夷地・千島列島を探査したのはだれか。

① 最上徳内　② 工藤平助
③ 竹内式部　④ 山県大弐

6 田沼時代に発展を遂げた文化はどの時期か。

① 延享・宝暦期　② 延享・天明期
③ 宝暦・天保期　④ 宝暦・天明期

7 浅間山の大噴火で長期化した飢饉はどれか。

① 天明の飢饉　② 天保の飢饉
③ 享保の飢饉　④ 寛永の飢饉

8 田沼意次の子が就いていた役職はどれか。

① 若年寄　② 大目付
③ 京都所司代　④ 寺社奉行

第13講 PART 2　確認問題 解答

1 解答：④　①の徳川家慶は 12 代将軍，②の徳川家重は 9 代将軍，③の徳川家斉は 11 代将軍。

2 解答：②　①の**山県大弐**は**明和事件**で処刑された兵学者。

3 解答：③　足高の制は，徳川吉宗が行った享保の改革で実施された。

4 解答：③　**印旛沼・手賀沼**（下総国）の干拓は，利根川の大洪水などが原因で完成を見なかった。

5 解答：①　②の**工藤平助**は仙台藩の医師で，『赤蝦夷風説考』を著して蝦夷地開発と対露貿易を進言した。

6 解答：④　田沼の大胆な改革に刺激を受けて，宝暦・天明期の文化は多様な発展を遂げた。

7 解答：①　**天明の飢饉**は 1782 から 1787 年まで続いた。

8 解答：①　**田沼意知**は，私憤から，旗本の佐野政言〔「世直し大明神」〕に殿中で刺殺された。